

1. ロシアの接近

*1792年 () が () に来航。幕府に通商を求めた。



日本は鎖国中のため、この要求を拒否。



ロシアは () や択捉島にある日本の拠点を襲撃。



幕府は、ロシアからの防備のために、() に権太の大がかりな実地調査を命じた。

2. イギリスとアメリカの接近

*1808年 フェートン号事件

→ イギリスの軍艦フェートン号が長崎港に侵入し、当時対立していたオランダの長崎商館の引き渡しを求め、オランダ人2人をとらえるなどの乱暴をはたらいた事件。

*1825年 () を出す。

*1837年 モリソン号事件

→ 幕府が浦賀に日本の漂流民を届けに来たアメリカ船モリソン号を砲撃して打ち払った事件。

◎なぜ、アメリカは日本に接近するようになったのか？

*アメリカの () の活動がさかんになり、日本の太平洋岸に接近し、日本に水や燃料を求めるようになったため。

3. 幕府に対する批判

蘭学者の () や () は、西洋の強大な軍事力を知って、幕府の措置を批判した。



*1838年 () … 幕府は彼らを厳しく処罰した。

地図

化政文化

◎次のA～Gの人物に最も関係が深いものを、①～⑦から1つずつ選びましょう。

- A. 十返舎一九 [] B. 滝沢馬琴 [] C. 小林一茶 []
D. 葛飾北斎 [] E. 東洲斎写楽 [] F. 歌川広重 []
G. 喜多川歌麿 []

- ①『針仕事』 ②『東海道五十三次』 ③『東海道中膝栗毛』 ④『おらが春』
⑤『三世大谷鬼次の江戸兵衛』 ⑥『富嶽三十六景』 ⑦『南総里見八犬伝』

新しい学問と教育の広まり

- ・ () … 『古事記伝』を著す。
- ・ () () … 『解体新書』を著す。
- ・ () … 『エレキテル (発電機)』の開発。
- ・ () … 『大日本沿海輿地全図』
- ※ () … 江戸時代の庶民の教育施設であり、「読み・書き・そろば
ん」の基本学習を行った。

1. 開国の要求

アヘン戦争ののち、欧米諸国は日本に（ ）を求めるようになった。とくに、太平洋沿岸に進出するようになった（ ）は日本に対して強く要求するようになった。

2. ペリーの来航

*1853年（ ）の来航

※4隻の軍艦〔＝（ ）〕が神奈川県（ ）に来航。

※ペリーはアメリカ大統領の国書をわたして日本に開国を要求。

～アメリカ大統領の国書～

わが国の船で毎年カリフォルニアから中国へ向かう船も多くなり、また捕鯨のため日本に接近するものも多い。難破したときは保護してほしい。

私が強力なる艦隊とともにペリー提督を派遣し、江戸を訪問させる唯一の目的は友好・通商・石炭と食料の供給およびわが国の船が難破したときの人民の保護である。

◎次の狂歌は何を歌ったものだろうか？

「泰平の眠りをさます上喜撰 たった四杯で夜も眠れず」

◎教科書P144③の2つの絵から何が読みとれるだろうか？

3. 幕府の対応

幕府は、鎖国の方針に基づき拒否したが、ペリーの強い態度に押され、翌年回答することを約束した。ペリーは回答を得るために、翌年もう一度訪れることを告げて立ち去った。



困った幕府はどうしたか？



*ペリーが去ったあと、老中である（ ）は、半年後にやって来るペリーへの回答に頭を悩ませた。そこで朝廷や諸藩（全国の大名）に対して意見を求めた。

◎もし、自分だったらこの問題に対してどのような対応を取りますか？「受け入れる」か「拒否する」か、どちらか1つに○をつけて、理由も述べましょう。

[受け入れる ・ 拒否する]

*理由

◎班ごとに分かれて、それぞれ意見をまとめて発表しよう。

[受け入れる () 名 ・ 拒否する () 名]

*受け入れる理由

*拒否する理由



翌年、再びペリーがやって来た！！どうする日本！？

4. 日米和親条約

NO. 52

*1854年 () を結ぶ → 日本の ()

※続いて、イギリス、オランダ、ロシアとも同じ内容の条約を結んだ。

[条約の内容]

- ① () ・ () の2つの港を開港
- ② 入港するアメリカ船に () ・ () ・ () などを補給すること
- ③ 下田に () を置くこと

※この条約では、まだ貿易は開始されていない。

5. 日米修好通商条約

*アメリカの総領事 ()

→貿易を開始するために、幕府に新たに日米修好通商条約を結ぶことを要求。



幕府の意見は2つに分かれる



※1858年、大老の () は反対派をおさえ、朝廷の許可のないまま日米修好通商条約を結んだ。

*1858年 () を結ぶ。

[条約の内容]

- ① () ・ () ・ () ・ () ・ () の5港を開港して貿易を行う。
- ② () を認めること。
- ③ 日本の () はなし。

※この条約は () であった。

※その後、イギリス、フランス、ロシア、オランダとも同様の条約を結んだ。

◎不平等な内容とは？

a. ()

→ 外国人がそこにいる国の法律にしばられない権利。外国人が罪を犯してもその国の領事が裁判し、日本の裁判にかけることができず不平等なものであった。

b. ()

→ 輸入品にかかる税金を関税といい、本来なら輸入国が関税を自主的に決める権利があるが、この条約では日本に決定の権利がなく、日本に不利な貿易だった。

◎大老の井伊直弼は、朝廷の許しを得ないまま日米修好通商条約を結んだが、それはなぜでしょうか？ 次の①～③の中から1つ選び記号に○をしましょう。

- ①大老には独裁が認められており、時間に余裕がなかったので、井伊直弼の判断で結んだ。
- ②朝廷が結果を先延ばしにしたが、将軍の許可を得たので条約を結んだ。
- ③朝廷は許可しなかったが、ほとんどの大名が条約を結ぶことに賛成した。

◎井伊直弼の判断に対してどう思いましたか？ 賛成・反対のどちらか1つ選び、その理由を述べましょう。

[賛成 ・ 反対]

--

◎班ごとに分かれて、それぞれ意見をまとめて発表しよう。

[賛成 () 名 ・ 反対 () 名]

* 賛成の理由	* 反対の理由

◎貿易が始まると国内ではどんな問題がおこったか？教科書 P146 を読んでまとめよう。

<p>*安価な綿織物や綿糸を輸入 → 国内の生産地に大打撃</p> <p>*生糸の輸出 → 国内で品不足</p> <p>*物価の上昇</p>	<p>} 人々の生活は苦しく なり打ちこわしも 多発</p>
--	--

◎外国への対応をめぐる、国内にはどのような動きが生まれたか。

① () … 天皇を尊ぶ考え

② () … 外国を追い払おうとする考え

※ ①+② = () へと発展

↓

天皇を中心に国をまとめて、外国を追い払う運動

7. 幕府の対応

*1858年 ()

※ ()

→ 長州藩出身の尊王攘夷を唱えた思想家。松下村塾を開き多くの人材を育てた。門下生からは、()、() など幕末から明治にかけて活躍した人物を多数輩出。

◎資料集 P125 の右下の絵について考えてみよう。

①かごに乗っていた人物は誰だろうか？ []

②かごを襲っている人々は誰だろうか？ []

③この事件を何というか？ []

攘夷から倒幕へ

1. 薩摩藩の動き

*1862年（ ）

→ 横浜の生麦村で、江戸から帰国途中にあった薩摩藩の行列を横切ったイギリス人を薩摩藩士が切りつけた事件。



*1863年（ ）

→ イギリスは薩摩藩に対し、犯人の逮捕と処刑、賠償金の支払いを求めたが、これに応じなかった薩摩藩を砲撃した砲撃した事件。

2. 長州藩の動き

*1863年（ ）

→ 長州藩が関門海峡を通過するアメリカ船を砲撃した事件。



*1864年（ ）

→ 下関事件に対する報復として、米・英・仏・蘭の四カ国艦隊が下関砲台を攻撃し占領した事件。

3. 攘夷から倒幕へ

1) 長州藩の動き

四国艦隊下関砲撃事件で、攘夷の不可能さを知った長州藩では、幕府を倒して統一国家の体制をつくり、外国と対抗できる強国を目指そうという考えが強まった。その中心になったのは、（ ）や（ ）・伊藤博文らであった。

2) 薩摩藩の動き

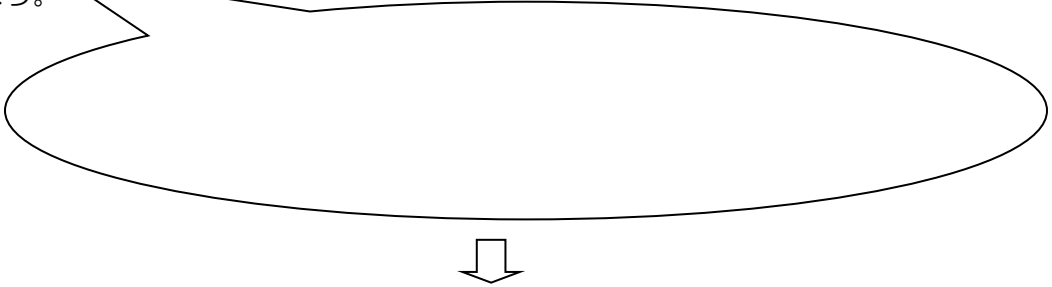
薩英戦争で攘夷の不可能さを知った薩摩藩では、（ ）や（ ）らが中心となって、イギリスの援助をうけて藩の力を強めた。

3) 薩長同盟

*1866年 () を結ぶ

◎長州藩 []
※仲介役 … () 藩 []
◎薩摩藩 []

◎坂本龍馬はどのようにして2つの藩を説得したのだろうか。その時のセリフを考えてみよう。



こうして、尊王攘夷運動は () へと変化していった。

4. 徳川幕府の滅亡

*1866年 第15代将軍 () (在職 1866~1867年)

* () 年 10月 ()

→ _____

* () 年 12月 ()

→ () による政治を復活し、天皇を中心とした新政府を組織することを宣言した。これにより、徳川勢力を政治の世界から完全に排除した。

こうして、約 260 年にわたった徳川幕府は滅亡した。それは、武士が政権をにぎる時代の終わりでもあった。

～ 坂本龍馬の生涯 ～

幕府の軍艦奉行だった勝海舟に航海術を学び海援隊を結成して海運業に従事。1866年には薩長同盟を成立させて、大政奉還の実現に力を尽くしたが、倒幕の直前、1867年近江屋事件により暗殺。

5. 戊辰戦争

※1868年（ ）時代の始まり

→ 幕府滅亡後も、()と()の戦いは続いた。

①1868年1月（ ）の戦い

→ [] VS []

②1868年4月（ ）

※（ ）

幕府海軍の副総裁。江戸城無血開城後、江戸湾から脱出し東北地方を拠点に最後まで新政府軍に抵抗を続けた。

③1868年8月（ ）の戦い

→ [] (旧幕府側) VS []

※（ ）が活躍したが敗れる。

④1869年5月（ ）の戦い

王政復古の号令の後に起こった、旧幕府軍と新政府軍との一連の戦いを（ ）という。1868年1月の鳥羽・伏見の戦いから1869年5月の五稜郭の戦いまで続いた。